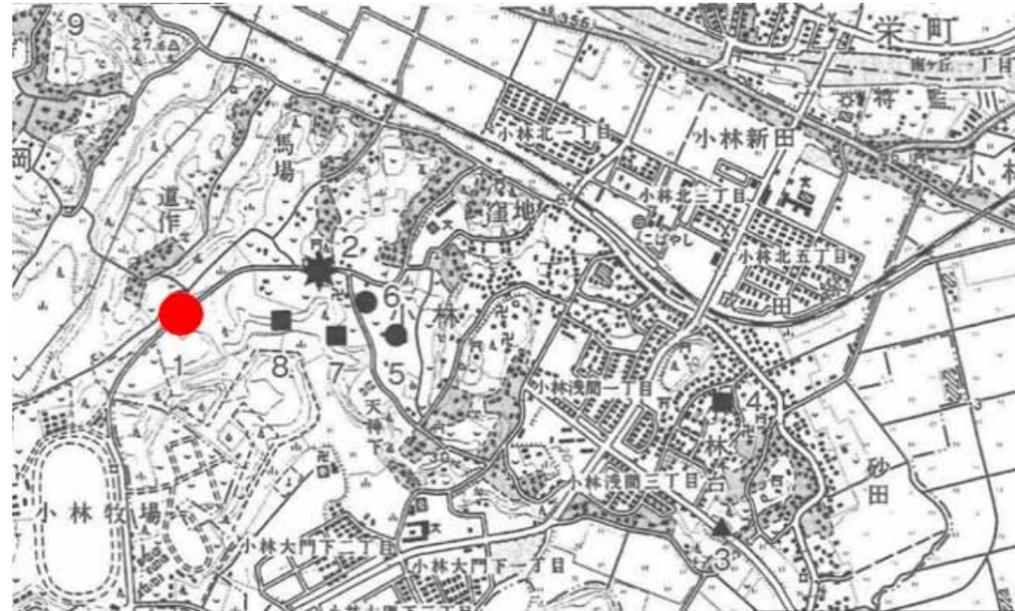


道作1号墳(第3次)現地説明会資料

主催：印西市教育委員会生涯学習課・(公財)印旛都市文化財センター

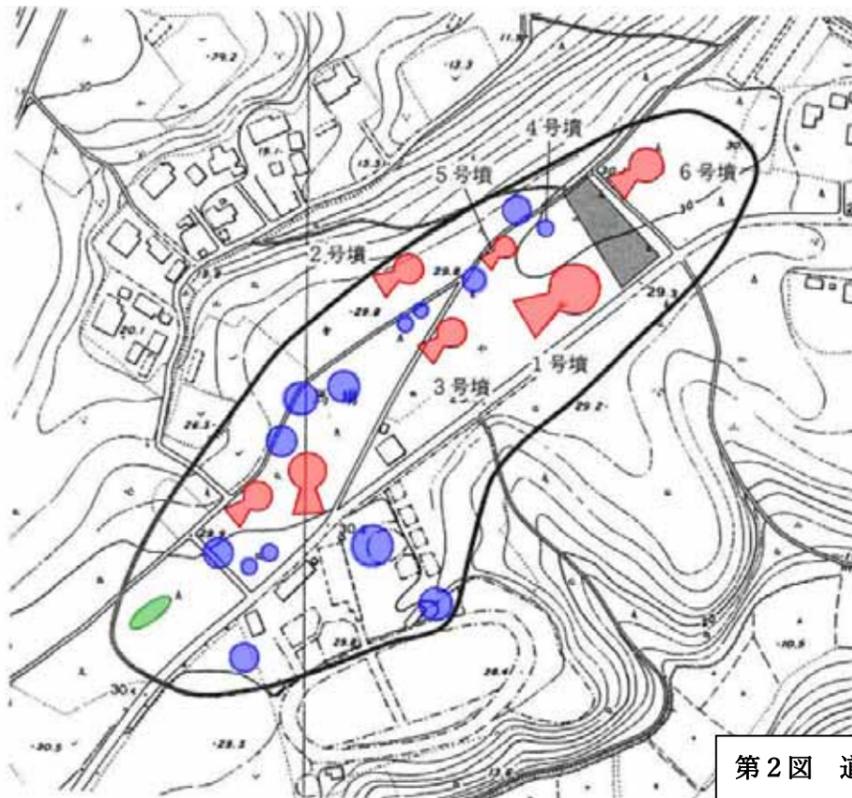
2019年12月8日(日)10:00~12:00



第1図 遺跡の位置

・各古墳の内容

- 1 道作古墳群 前方後円墳7基・円墳14基・方墳1基
- 7 駒形古墳 前方後円墳2基
- 4 小林古墳群 円墳4基 うち鶴塚古墳からは壺形の特殊埴輪が出土



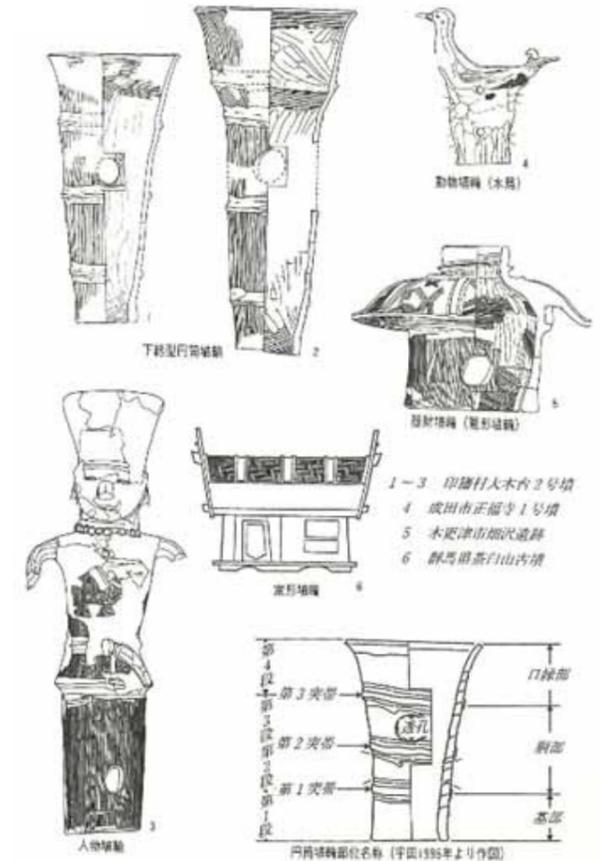
第2図 道作古墳群



第3図 道作1号墳全景



第4図 主体部検出状況



いろいろな埴輪

第5図 埴輪の種類

| ・道作古墳群の各古墳の大きさ | | | |
|----------------|---------|-------|-------------------|
| 古墳番号 | 規模(全長) | 墳形 | 備考 |
| 1号墳 | 46m | 前方後円墳 | 下総形円筒埴輪・周溝有・埋葬施設有 |
| 2号墳 | 36m | 前方後円墳 | |
| 3号墳 | 30.5m | 前方後円墳 | 下総形円筒埴輪 |
| 4号墳 | 11m | 円墳 | 周溝有 |
| 5号墳 | 15m(推定) | 前方後円墳 | 周溝有 |
| 6号墳 | 37m | 前方後円墳 | 周溝有・鉄斧出土 |

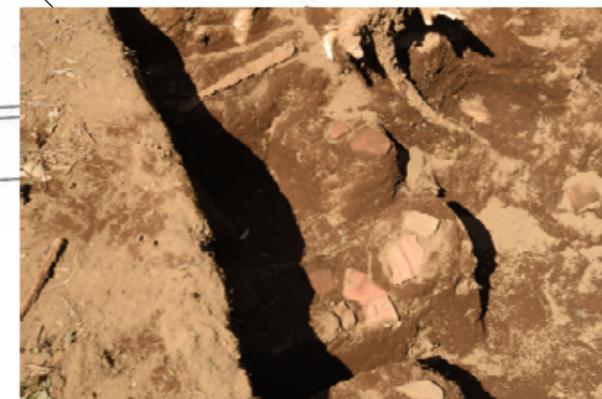
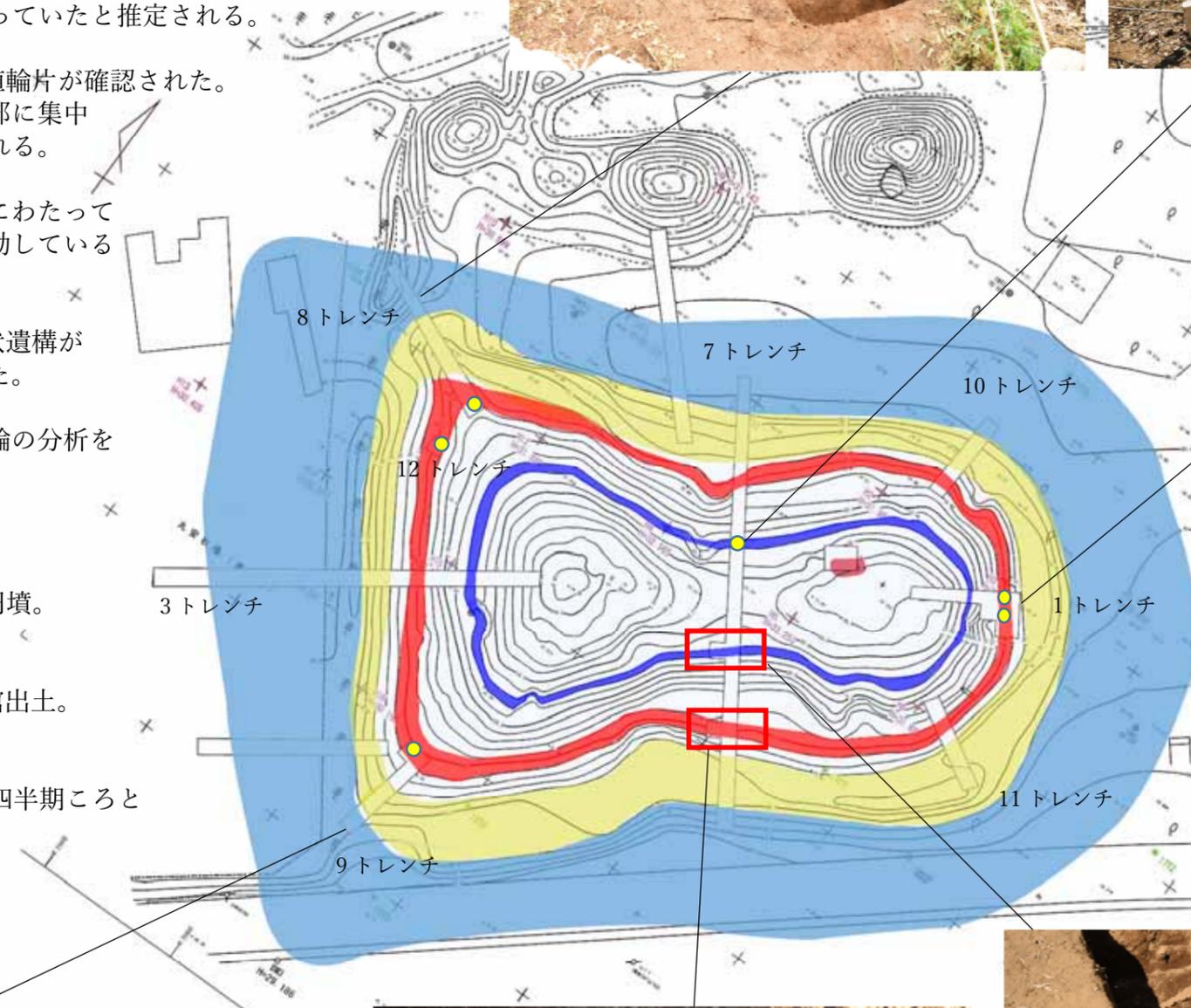
令和元年度 道作1号墳（第3次）発掘調査成果

今年度の成果

- 1・8・9トレンチ墳裾部から原位置と推定される円筒埴輪列が検出された。
また、7トレンチからは墳頂部からも埴輪の基部が出土しており、埴輪列は少なくとも墳頂部に1列、墳裾部に1列巡っていたと推定される。
- 7トレンチ南側、墳頂部および平坦部において形象埴輪片が確認された。
埴輪の種類は現在調査中であるが、形象埴輪は括れ部に集中しており、意図的に配置されたものであると考えられる。
- また、主に墳丘南側につくられた平坦面は、広範囲にわたって硬化面が確認されたうえ、周溝の立ち上がりとも連動していることから、古墳築造に伴うものであると推定される。
- 8トレンチでは、周溝を切る形で後世の盛土及び溝状遺構が検出し、墳丘の改変がなされていたことが確認された。
- 調査は今年度で終了予定であり、今後は出土した埴輪の分析を進める。また、周辺の古墳との比較を行いながら道作1号墳の性格について検討していく。

これまでの成果

- 全長約46m（周溝含め66m）、高さ約4mの前方後円墳。
（印旛沼西岸域で最大）
- 後円墳頂部に長さ約2.2m、最大幅0.85mの箱式石棺出土。
石棺は絹雲母片岩（筑波石）製。
- 出土した埴輪の特徴から、古墳の築造は6世紀第3四半期ころと推定される。



凡例

- : 周溝
- : 平坦面
- : 埴輪 (基部)
- : 墳裾埴輪列
- : 墳丘埴輪列
- : 形象埴輪出土位置